

在宅医療・介護連携推進に関する アンケート・ヒアリング結果 について

令和 5（2023）年 3 月

みよし市在宅医療介護連携施策検討作業部会

【目 的】

- 関係機関が抱える医療・介護連携の課題の見える化
- ・在宅生活への移行・継続には、訪問看護が占める役割が大きいと推測される。
- ・医療職（訪問看護）が介護職（ケアマネジャー等）との連携で抱える課題を特定し、課題解決に向けた取り組みを検討する

【対 象 者】

介護保険での訪問看護を行う市内 6 事業所

【実施方法】

在宅医療・介護連携推進に関するアンケートを依頼し、回答内容をもとにヒアリングを行った。

【アンケート内容】

1. 訪問看護の利用状況
(利用人数、受入状況、看取り件数)
2. 利用者の病態・疾患
3. 利用目的・利用経路
4. 利用者へのケア内容
5. 利用者へのケア提供における課題・困難
6. 関係機関連携における課題・困難
7. 豊田みよしケアネットの利用状況
8. ACPの取り組み状況

1. 訪問看護の利用状況

(利用人数、受入状況、看取り件数)

訪問看護の利用人数

	全体登録者数	利用者数	受入可能者数
A事業所	6 5	5 5	7 5
B事業所	8 2	7 7	<u>不明</u>
C事業所	4 5	4 5	4 5
D事業所	2 1	2 0	2 5
E事業所	5 0	2 0	3 0
F事業所	<u>不明</u>	3 0	<u>不明</u>

対象者の受入状況

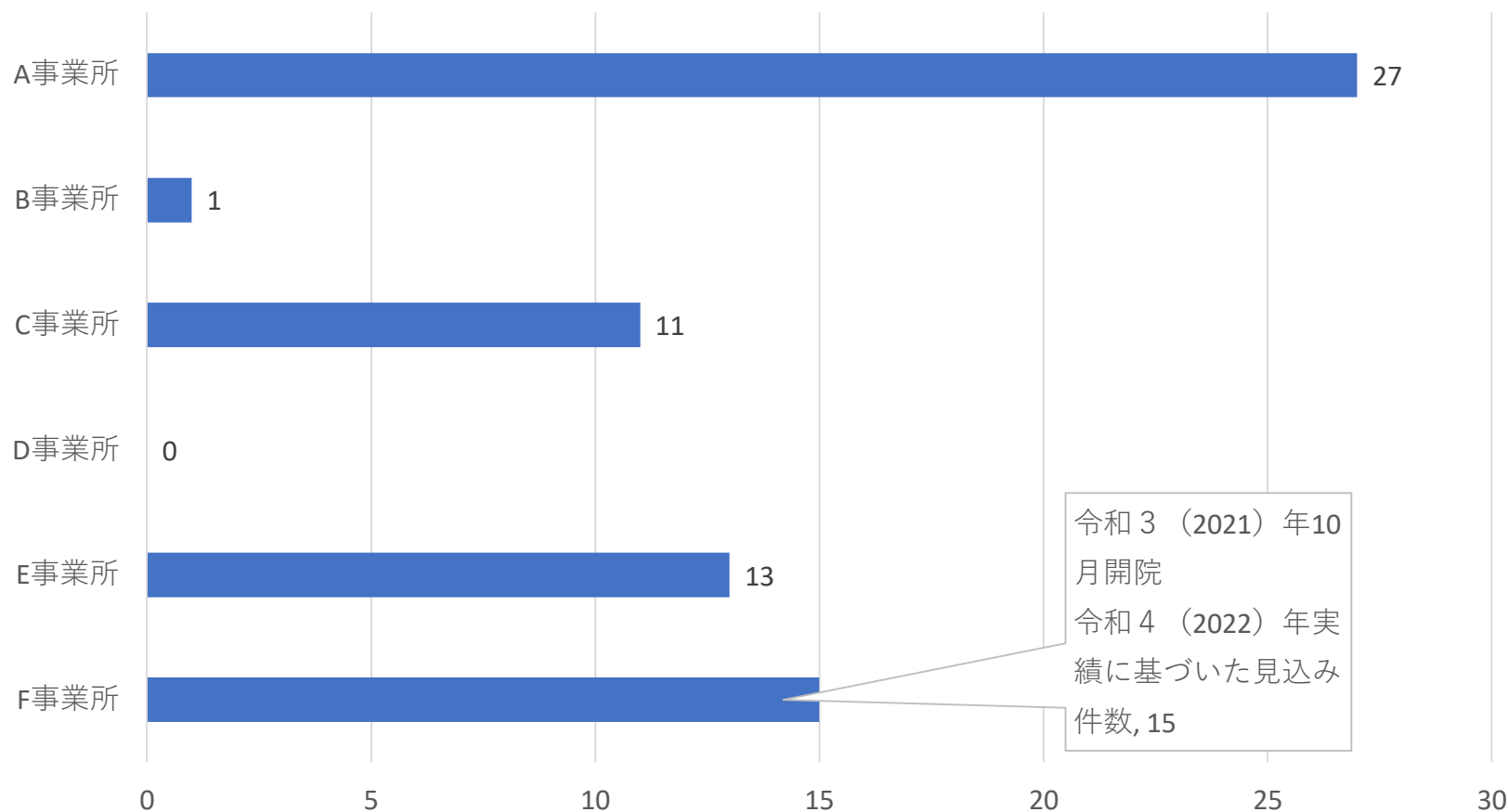
	障がい		介護 保険	医療保険		
	身体	精神		介護保険 対象外	末期がん	指定難病
A事業所	○		◎	○	○	○
B事業所	○		◎	○	○	○
C事業所	○		◎		○	○
D事業所	○	◎	○	○	○	○
E事業所	○		◎	○	○	○
F事業所	○		△	○	◎	○

【○】 受入可能なもの

【◎】 利用が多いもの

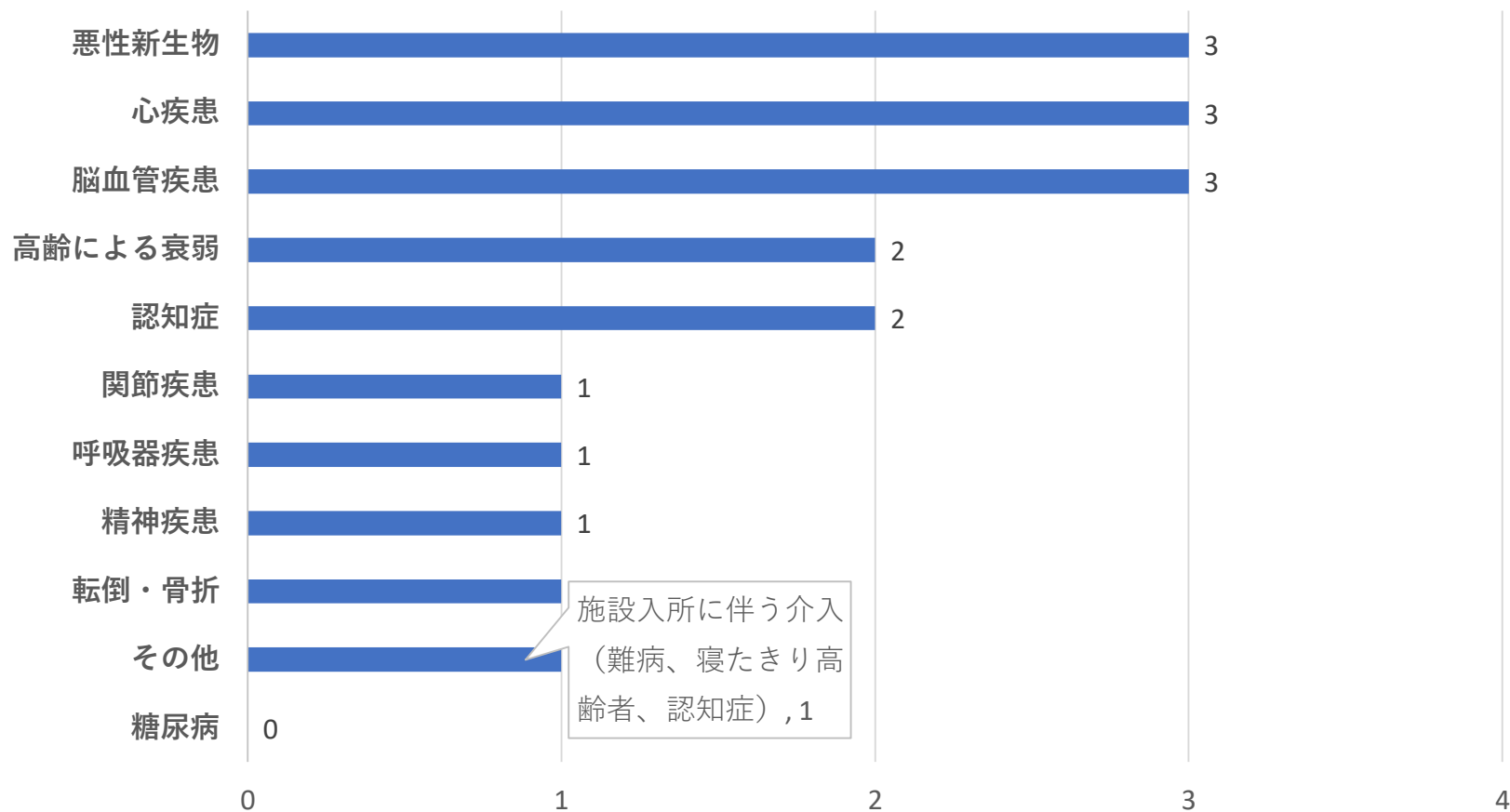
医療保険での対応終了後、
一部介護保険での利用継続あり

令和3（2021）年度 看取り対応件数



2. 利用者の病態・疾患

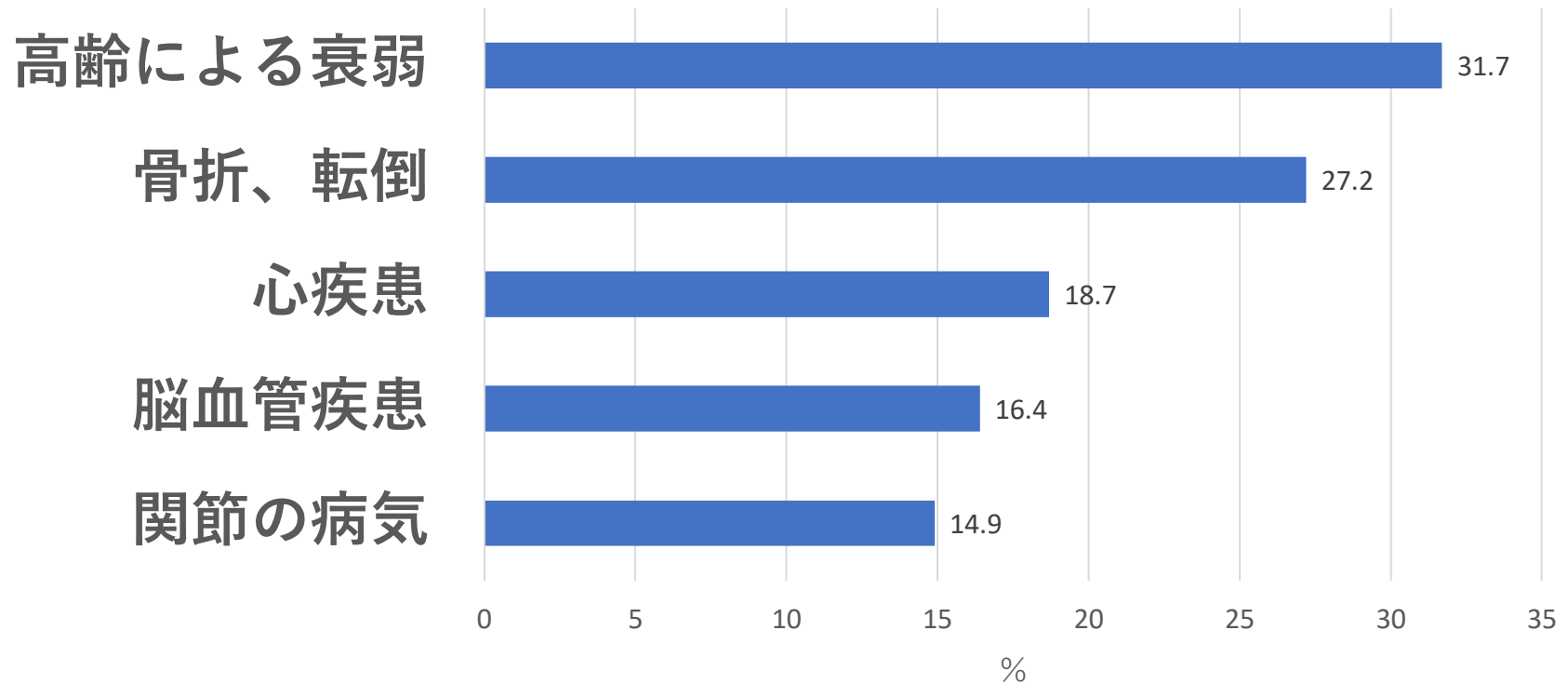
訪問看護利用者の病態・疾患



各事業所に上位3疾患を調査。1位から3位を順位にかかわらず、各1ポイントとして計上。

【みよし市】 介護・介助が必要になった原因

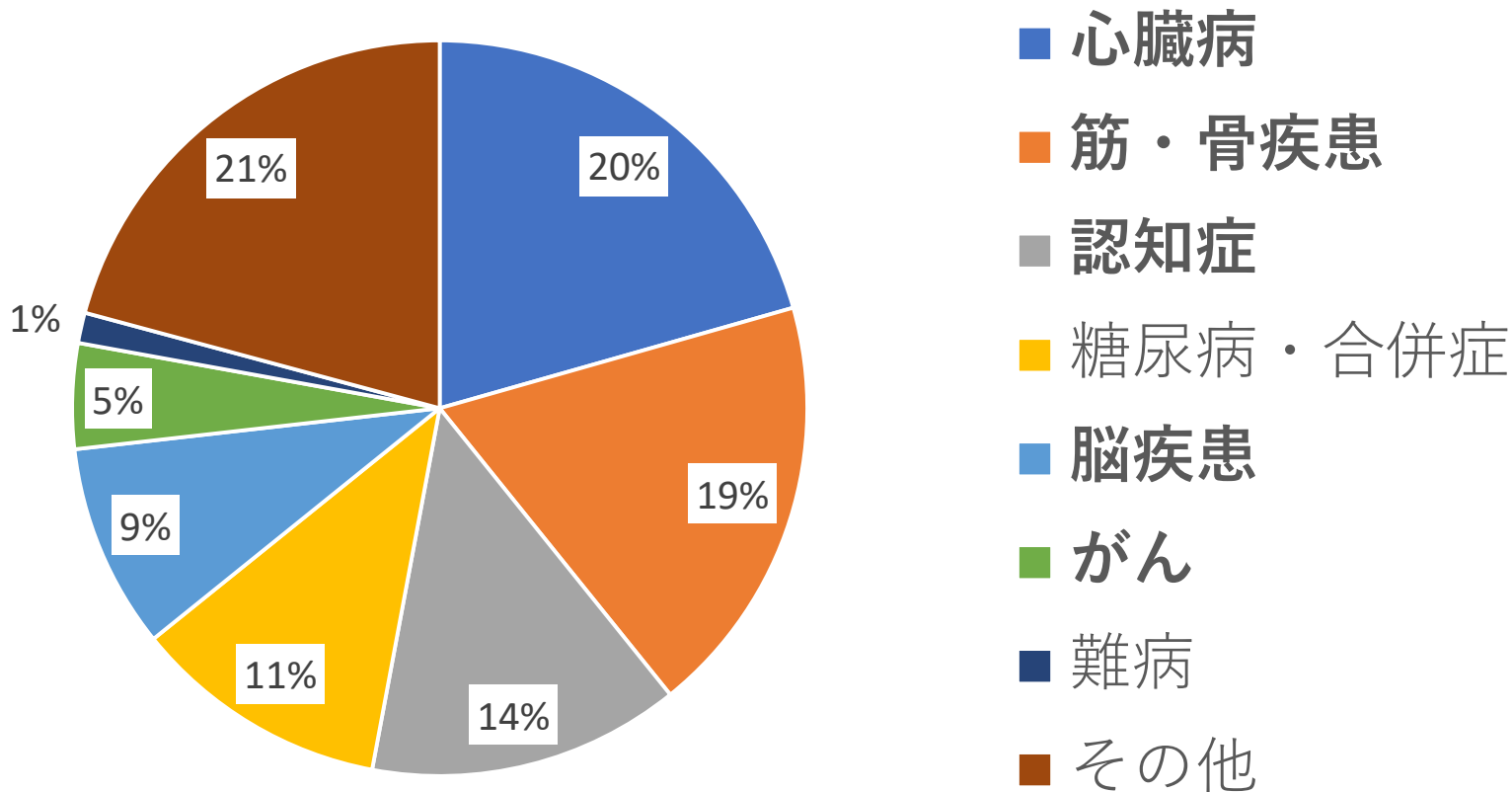
参考



(第8期みよし市高齢者福祉計画兼介護保険事業計画R3～R5)

【みよし市】 要介護（支援）者有病状況

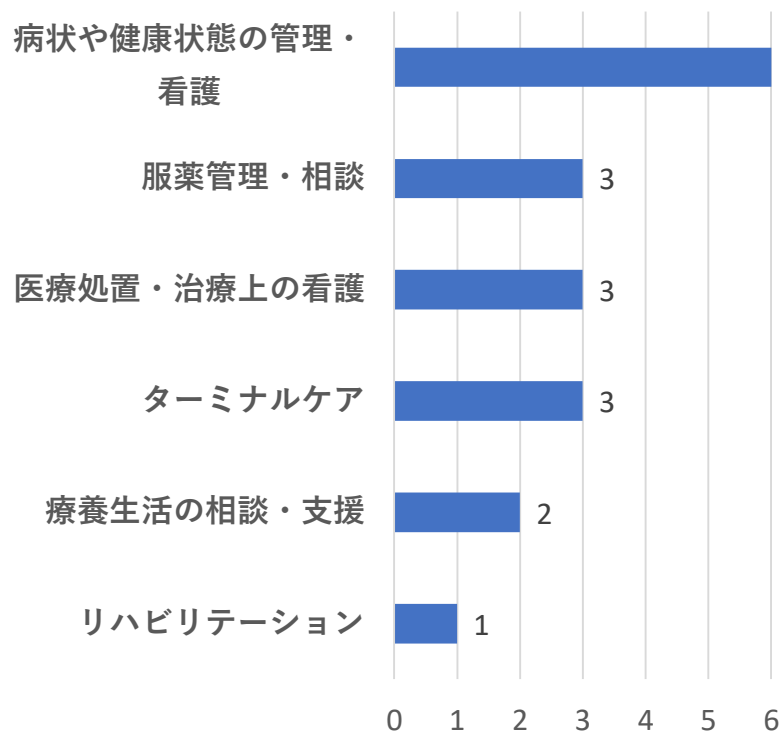
参考



3. 利用目的・利用経路

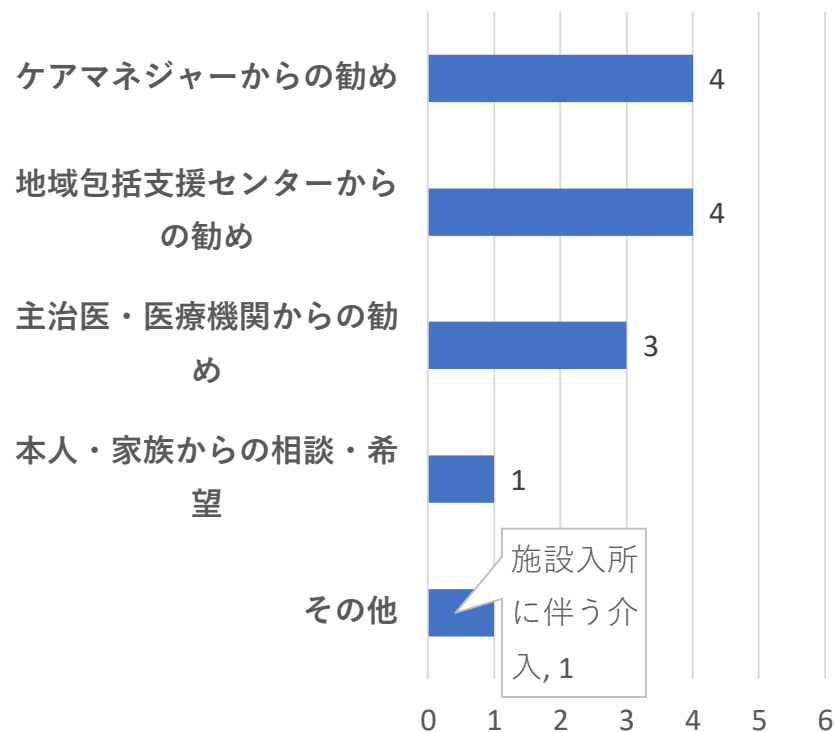
訪問看護の利用目的・利用経路

利用目的



各事業所に上位3つを調査。
1位から3位を順位にかかわらず、各1ポイントとして計上。

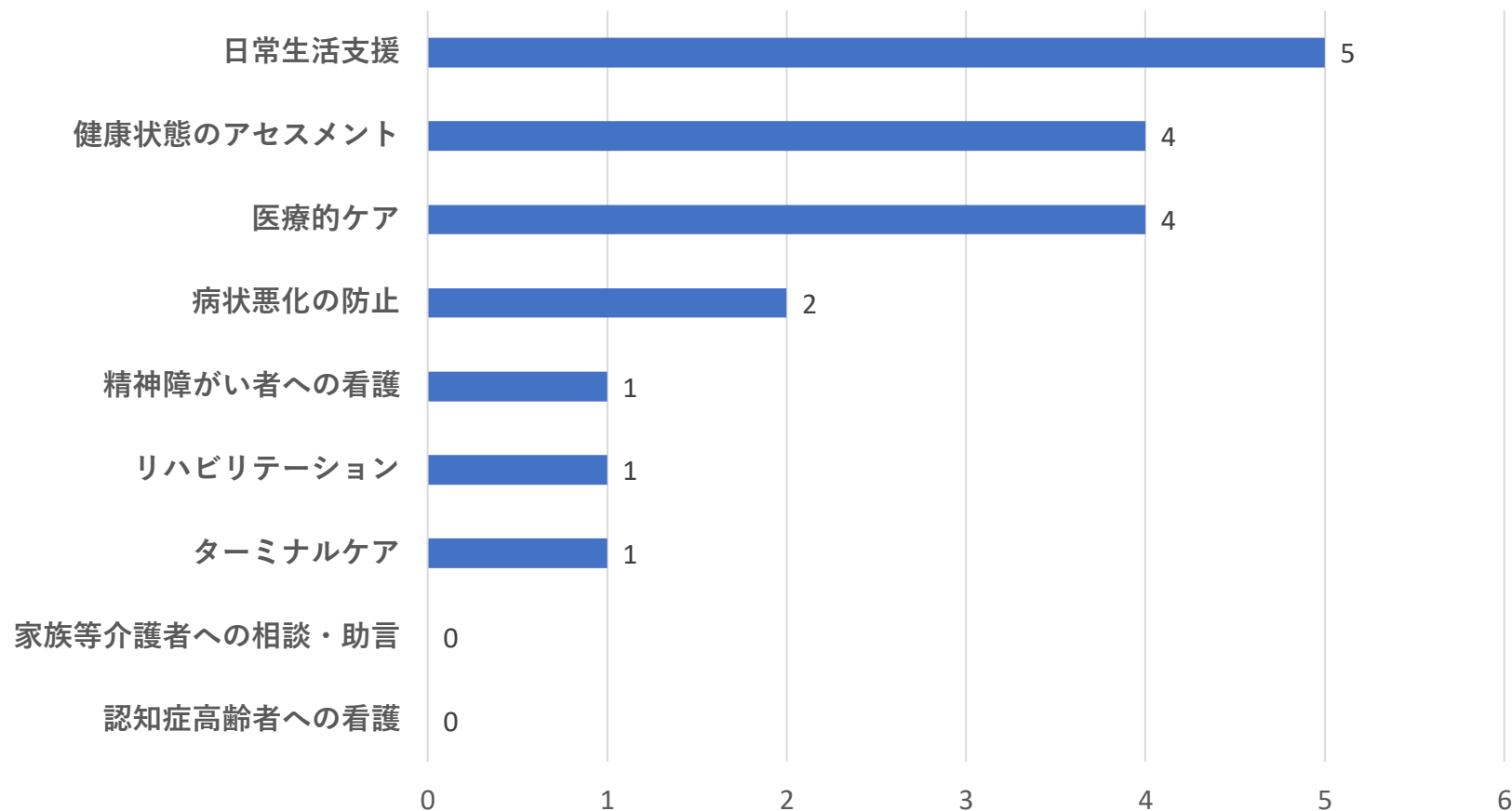
利用経路



各事業所に上位2つを調査。
順位にかかわらず、各1ポイントとして計上。

4. 利用者へのケア内容

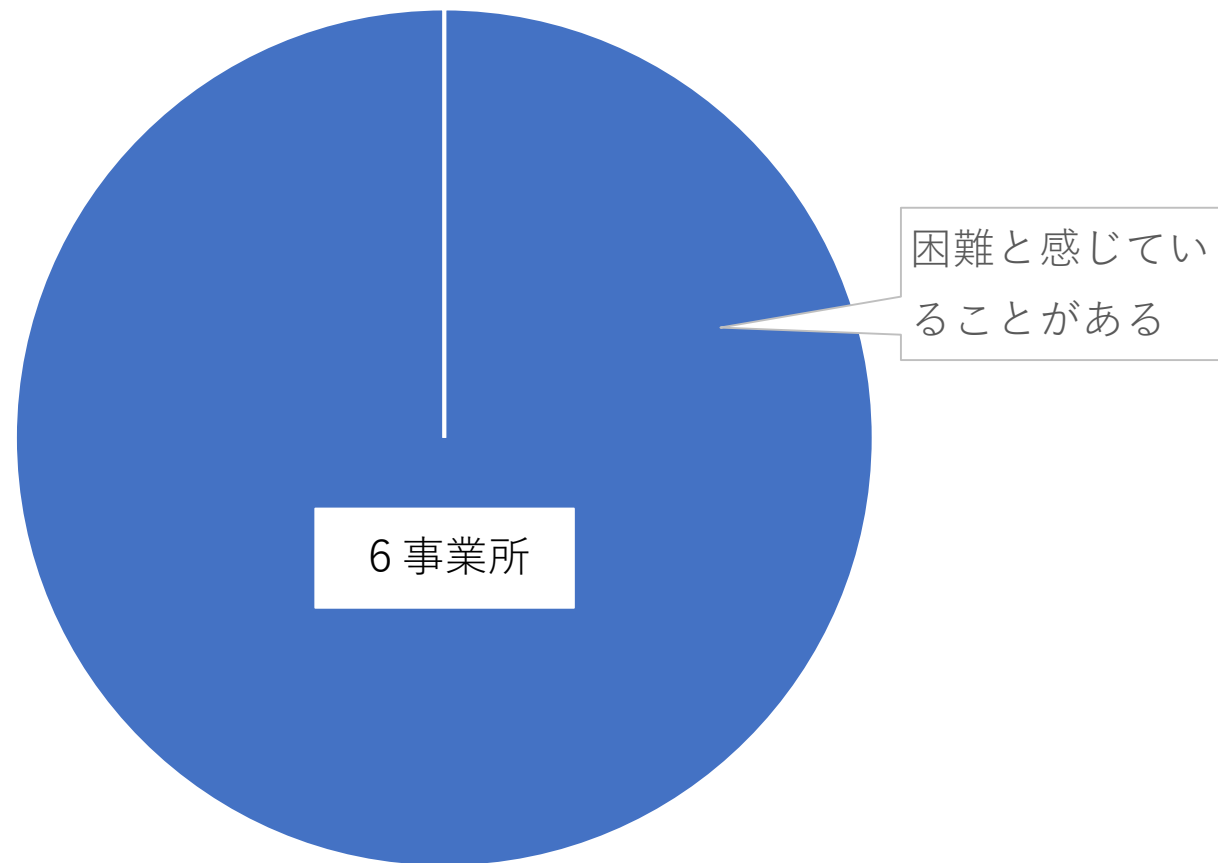
利用者へのケア提供内容



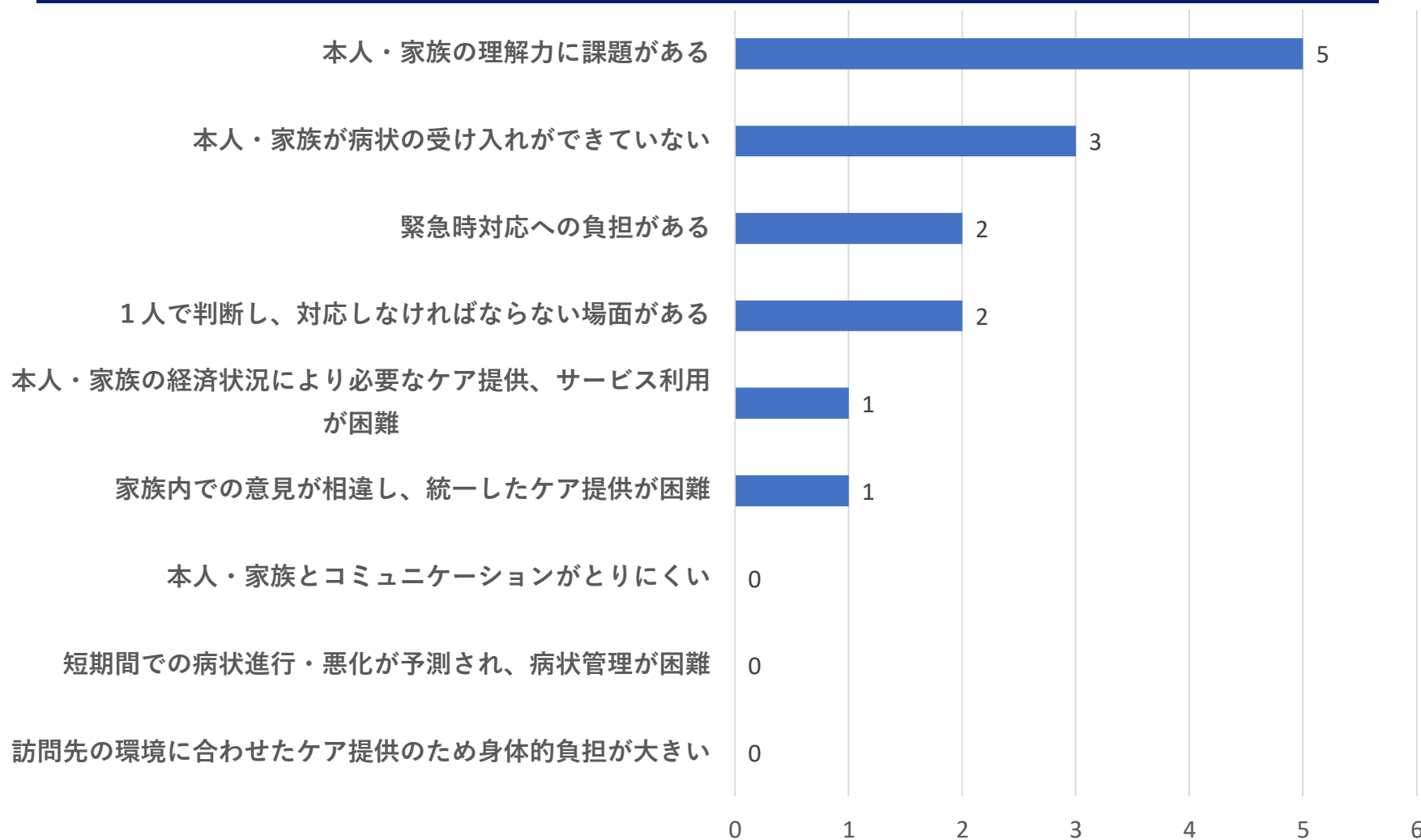
各事業所に上位3つを調査。1位から3位を順位にかかわらず、各1ポイントとして計上。

5. 利用者へのケア提供における 課題・困難

利用者へのケア提供における 課題・困難



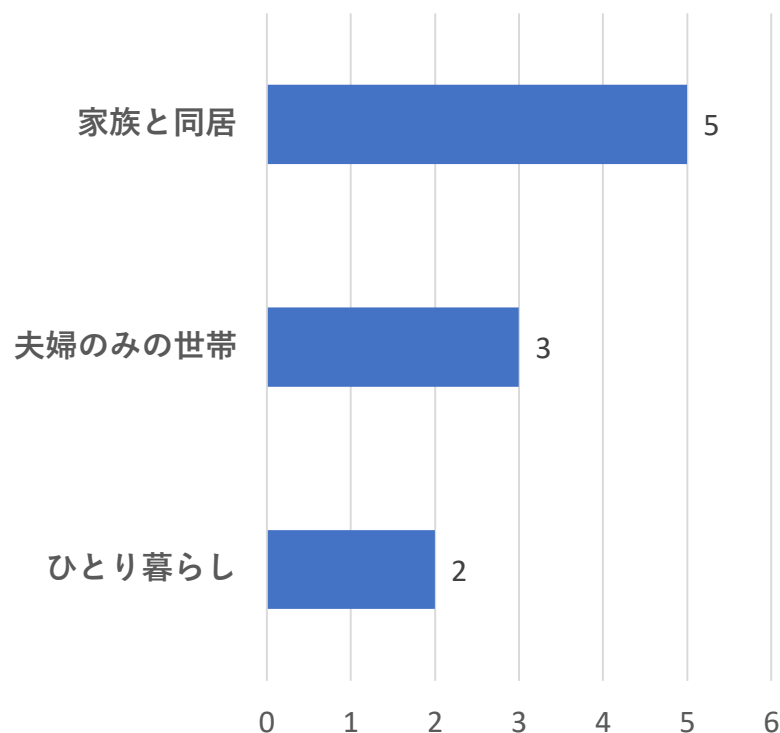
利用者へのケア提供における課題・困難



各事業所に該当するものについて、最大3つまで回答。回答の多い順に計上。

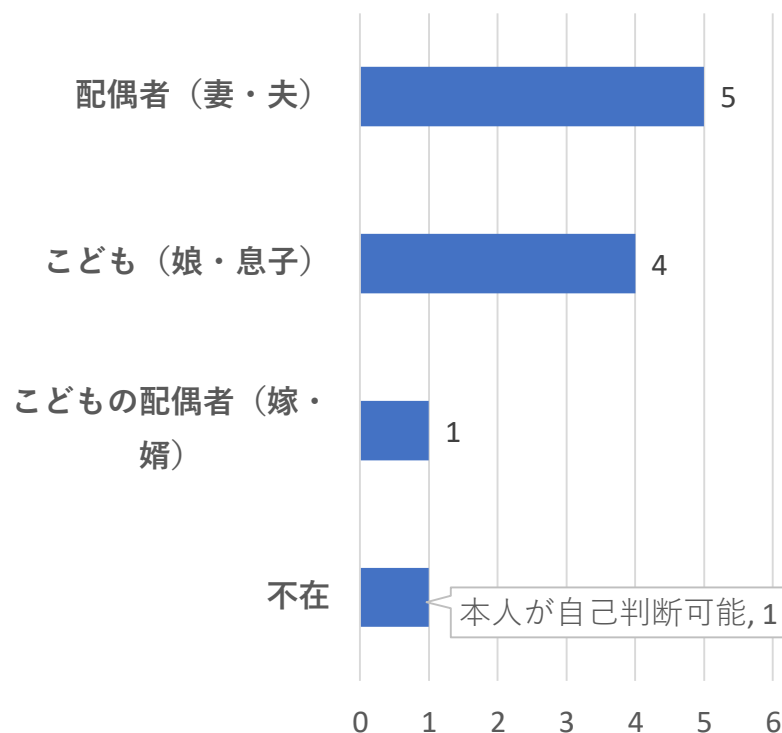
本人・家族の問題がある場合の 家族の状況

世帯の状況



各事業所に上位2つを調査。
順位にかかわらず、各1ポイントとして計上。

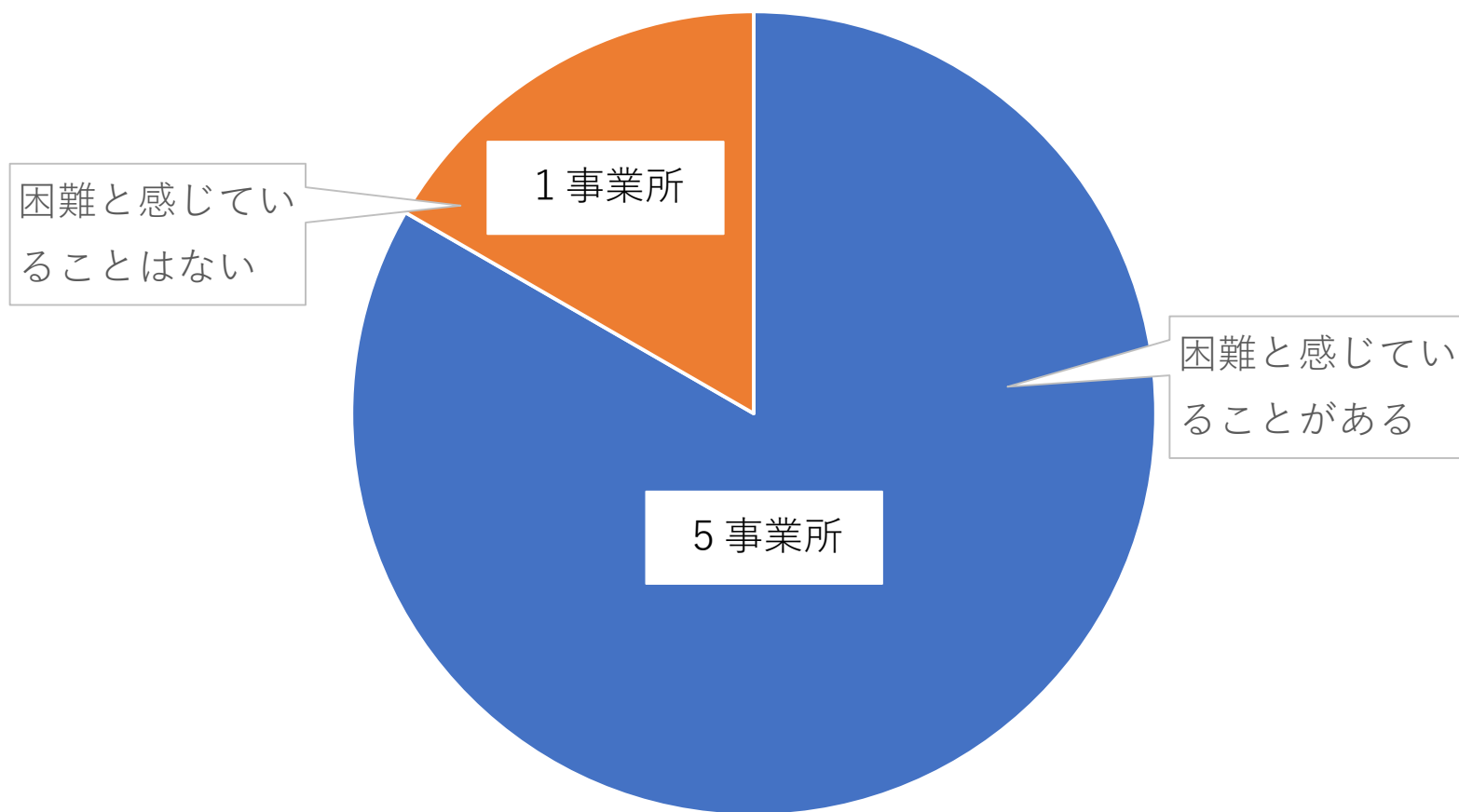
主介護者（キーパーソン）



各事業所に上位2つを調査。
順位にかかわらず、各1ポイントとして計上。

6. 関係機関連携における 課題・困難

ケアマネジャーとの連携における課題・困難



ケアマネジャーとの連携における課題・困難



【ケアマネジャーとの連携に課題・困難がある】と回答した5事業所に、該当するものについて最大3つまで回答。回答の多い順に計上。

ケアマネジャーとの連携

①日々の情報共有に関する課題

- 担当するケアマネジャーにより、連携のとりやすさに違いがある
 - ・ケアマネジャーの業務範囲が不明確であり、対応の差がある。
 - ・医療分野の知識があり、提案へ迅速な対応があると連携しやすい。
- ケアマネジャーと連絡がとれるタイミングが限られており、時間帯が合わない
 - ・訪問で外に出ていることが多く、連絡できる時間帯が限られている。
 - ・ケアマネジャーと直接話すことができないことも多い。
- ケアマネジャーと緊急時に連絡がとりにくい
 - ・利用者が休日に転倒した際、連絡がつかず、事後報告となってしまった。
- ケアマネジャーと情報共有ができていない
 - ・病状管理において重要な情報が得られない。また、不要な情報提供の連絡がある。

ケアマネジャーとの連携

②医療全般に関する課題

■ケアマネジャーの医療機関の利用時のルール・認識が不足している

- ・主治医を通さず、他医療機関へ受診・入院の相談をする事例があった。
- ・喀痰吸引患者の呼吸苦出現時に、訪問介護士に優先して相談する体制ができてしまった。
- ・事業所の特色、訪問看護の利用経路の未把握

■ケアマネジャーの価値観や考え方に相違を感じる

- ・保有する基礎資格による考えの相違。在宅生活継続可能と判断する線引きの違い。
- ・看取りの際のスタンスの違い。ケアマネジャーも本人・家族に積極的にかかわりを持ってほしい。

■ケアマネジャーの医療分野（専門用語・処置方法等）の知識が少ない

- ・麻薬での疼痛緩和時、病状が改善されたと認識し、主治医の確認なく入浴や散歩を提案した。

ケアマネジャーとの連携

②医療全般に関する課題

■ケアマネジャーと病状説明への理解や生活上でのリスクを共有することが難しい

・喀痰吸引患者や末期がん患者等病状の進行や管理が困難と想定される場合

(再掲)

①日々の情報共有に関する課題 に共通するもの

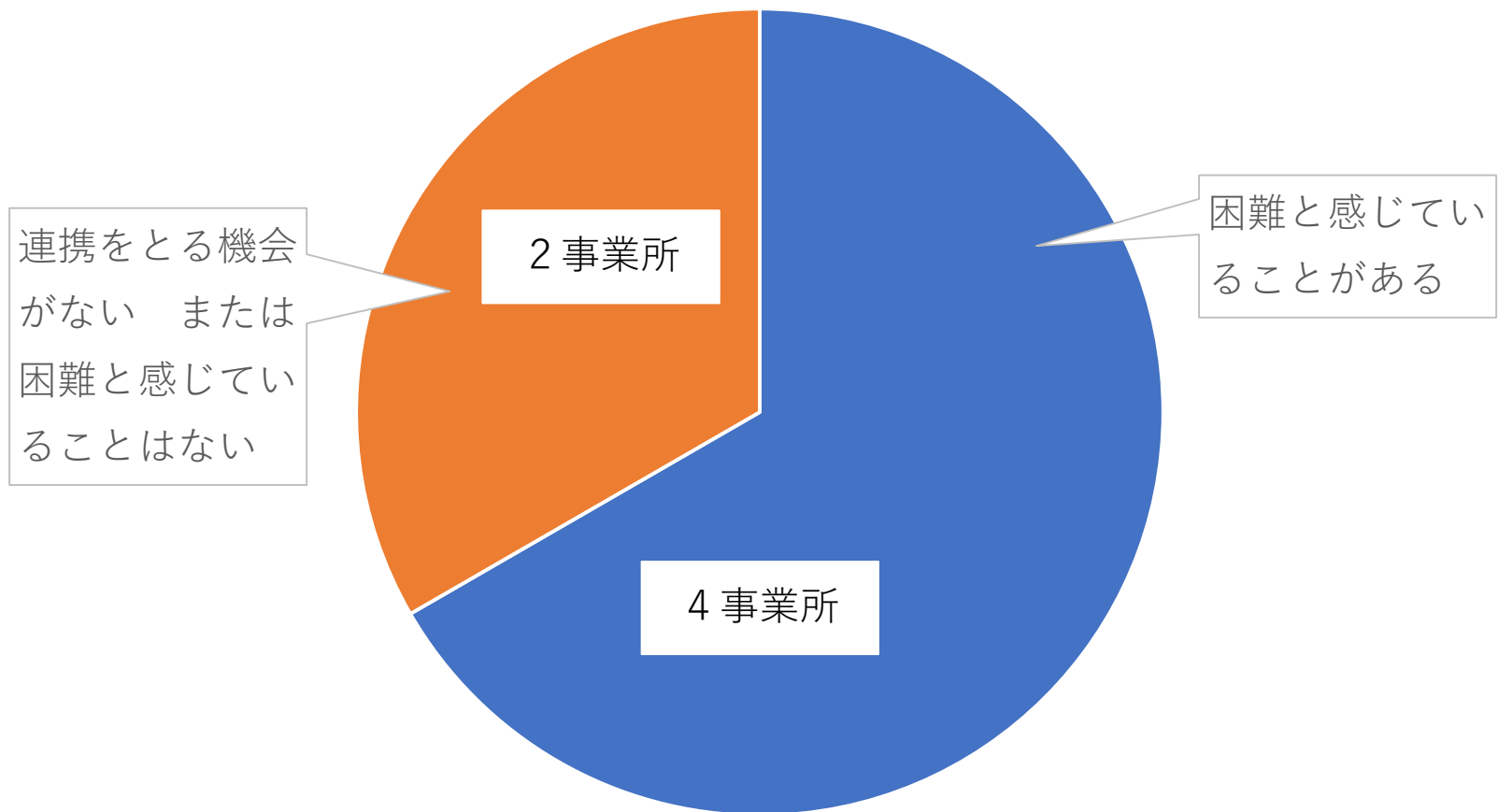
■担当するケアマネジャーにより、連携のとりやすさに違いがある

- ・ケアマネジャーの業務範囲が不明確であり、対応の差がある。
- ・医療分野の知識があり、提案へ迅速な対応があると連携しやすい。

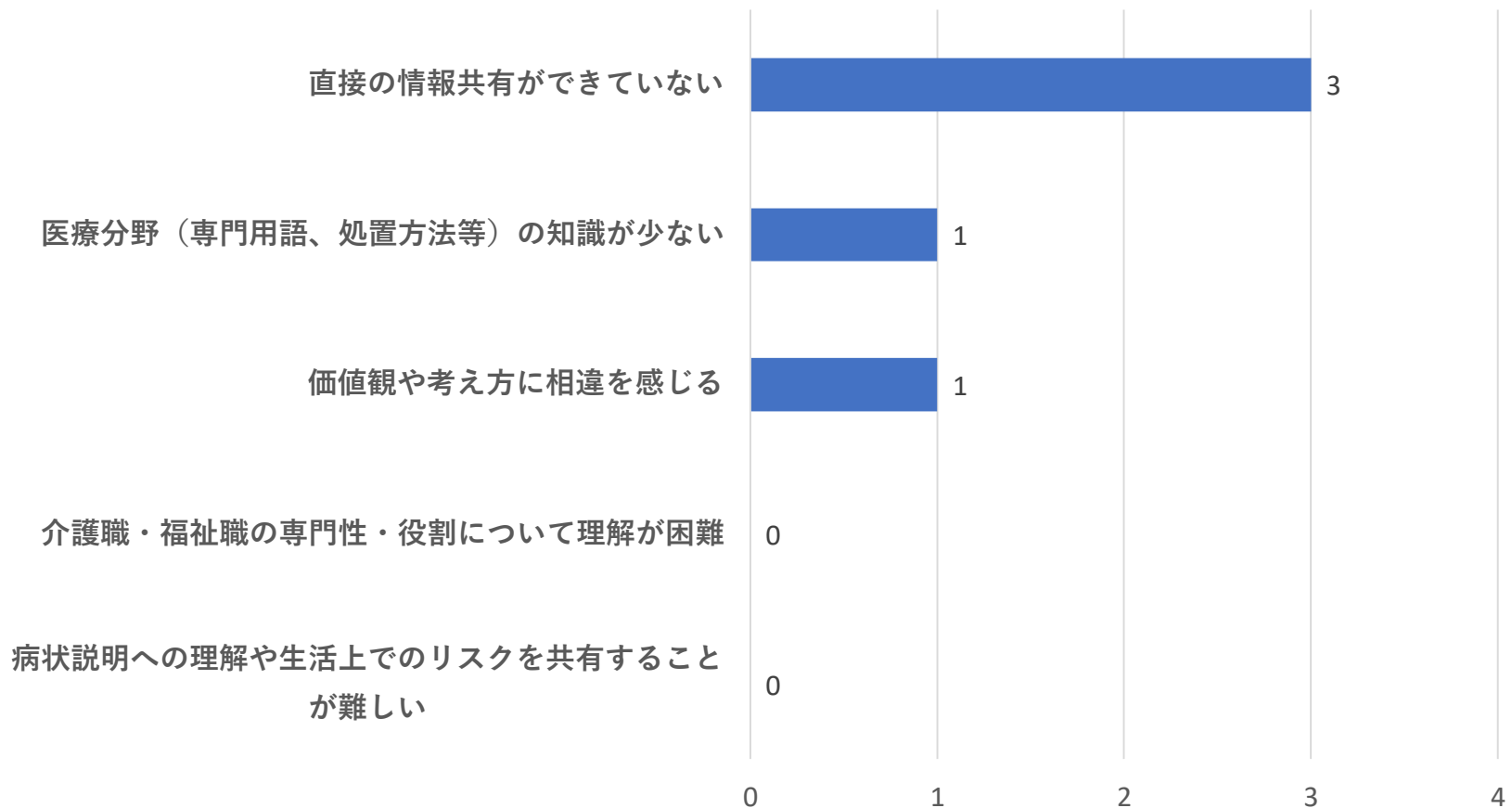
■ケアマネジャーと情報共有ができていない

・病状管理において重要な情報が得られない。また、不要な情報提供の連絡がある。

介護職・福祉職との連携における課題・困難



介護職・福祉職との連携における課題・困難



【介護・福祉職（デイ、ヘルパー等）との連携に課題・困難がある】と回答した4事業所に、該当するものについて最大3つまで回答。回答の多い順に計上。

介護職・福祉職との連携 課題・困難の詳細

【日々の情報共有に関する課題】

●介護職・福祉職と直接の情報共有ができていない

- ・施設入所の利用者について相談員を介して調整していた事例。

現場の介護従事者に訪問時間が伝わらず、支援ができなかった。また、床ずれに対して体位変換が行われず、悪化した。

- ・ノート等へ記入することはあるが、全ての情報を共有しきれていない。

【医療全般に関する課題】

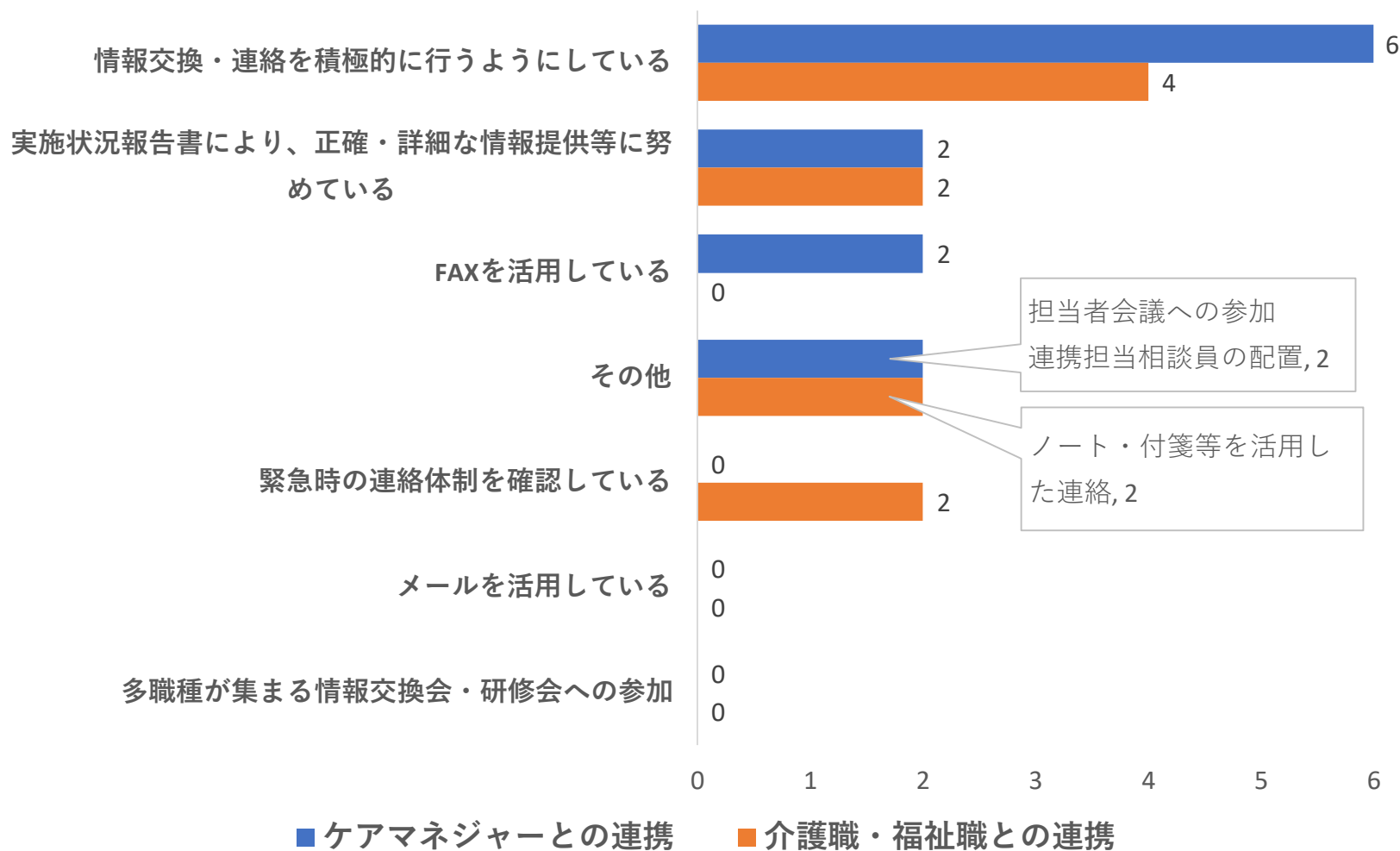
■介護職・福祉職の医療分野（専門用語、処置方法等）の知識が少ない

- ・保有する医療知識が少ないと感ずることがある。

■介護職・福祉職の価値観や考え方に相違を感じる

・在宅生活継続可能と判断する線引きの違い。医療職側は在宅生活継続困難だと判断する事例においても、介護職（訪問介護士）は本人・家族の意向を尊重している姿勢を感じる。

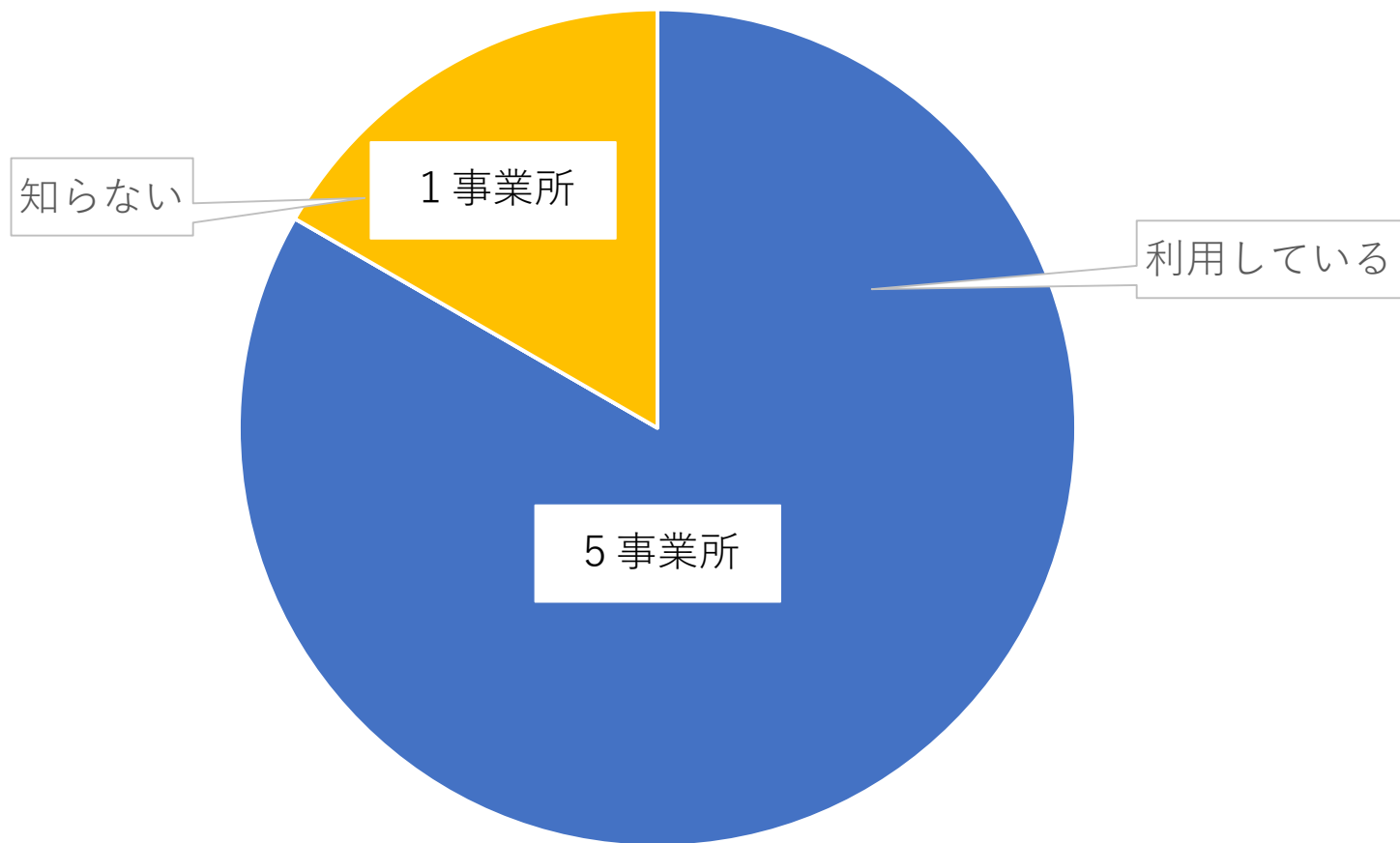
連携について工夫している点



各事業所に該当するものについて最大3つまで回答。回答の多い順に計上。

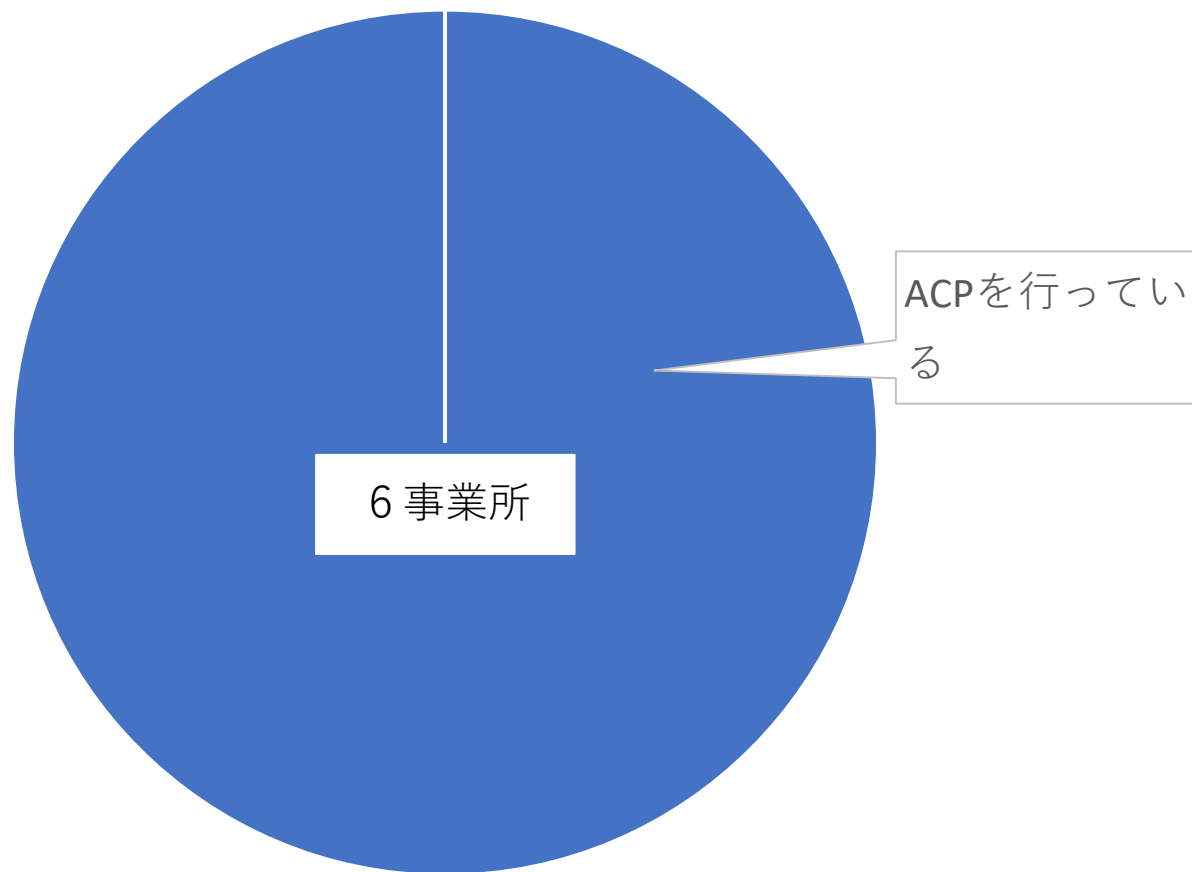
7. 豊田みよしケアネットの 利用状況

豊田みよしケアネットの 利用状況



8. ACPの取り組み状況

ACPの取り組み状況



ACPの取り組みの内容・工夫点

	実施内容
A事業所	・地域講座にて看取りの体験談を広く周知している。 ・本人・家族の意思・意向を確認し、その都度気持ちが変わることを念頭に支援している。
B事業所	・医療行為を行う利用者を対象に実施。介護を担う家族の想いを優先してしまうことも多く、本人の想いを実現する方法を模索している。 ・把握した本人・家族の意向は、関係者で共有している。
C事業所	・施設入所者への訪問看護提供。入居時に本人・家族へ延命措置や処置等について確認している。 ・意思表示や事前指示書の変更日がわかるようにしている。
D事業所	・その都度病状や経過について説明し、本人・家族の意向を確認している。 ・本人の理解が困難な場合、家族を対象に説明している。
E事業所	・本人・家族の本当の想いを把握するよう努めている。 ・介護を担う家族の気持ちの拠り所となれるよう心身の状況を把握、医師の病状説明後に訪問し、フォローする体制をとっている。
F事業所	・本人・家族の気持ちを優先に方針を決め、共有している。 ・緩和ケアの認定看護師が在籍。 ・本人・家族の理解度に合わせた説明、媒体を使用している。

アンケート・ヒアリング結果

【訪問看護利用について】

●利用者の病態・疾患

介護・介助が必要になった原因、要介護(支援)者有病状況と一致している。

なかでも、健康管理に配慮を必要とする疾患や複合的な要因による身体状況によるものが多いとなっている。

(参考) 【みよし市】 介護・介助が必要になった原因

(出典) 第8期みよし市高齢者福祉計画兼介護保険事業計画 (R3～R5)

【みよし市】 要介護（支援）者 有病状況

(出典) みよし市後期高齢者KDBデータ 令和3年度（累計）

【訪問看護利用について】

●利用目的・内容

疾患に由来して健康管理や医療的ケアの提供、服薬や清潔保持等の日常生活支援が多い結果となった。

また、事業所の特色に合わせて、精神看護やリハビリのケア提供があった。

●利用経路

主治医・医療機関からの案内やケアマネジャーからの勧めが多くなっている。

【ケア提供における課題・困難】

●ケア提供において

①本人・家族に由来する課題

（理解力・病状の受入ができていない）

②訪問看護の提供体制に関する課題

（緊急時対応への負担、看護師一人で訪問し、判断が迫られる場合がある）が多く聞かれた。

- ①本人・家族の課題に該当する世帯の状況は、家族と同居する場合が最も多く、配偶者や子どもが主介護者となっている。
- 高齢者夫婦のみ、高齢者独居の世帯もあり、なかには主介護者が不在の場合もあった。

【関係機関との連携における課題・困難】

- ケアマネジャーとの連携について
 - ① 日々の情報共有に関する課題
 - ② 医療全般に関する課題に分類分けされた。
- 介護職・福祉職との連携について
直接の情報共有ができていないことへの困難が多く聞かれた。
- ケアマネジャー、介護職・福祉職との連携において、電話連絡だけでなく、FAXや連絡ノートを活用した情報交換は行われているものの、タイムリーな情報共有には課題があると推測される。

【豊田みよしケアネット、ACPについて】

- 豊田みよしケアネットの利用状況
研修等の掲載情報を確認し、必要に応じて
スタッフ間で共有している事業所が多かった。
- ACPの取り組み状況
全ての事業所において、本人・家族の状況に
合わせた病状説明、随時の意向の確認が行わ
れていた。
ACPに用いる所定の様式や媒体はなかった。

アンケート・ヒアリング 結果のまとめ

- ICTを活用した多職種間での情報共有
- みよし市エンディングノートの周知・普及啓発
- 訪問看護事業所同士の顔の見える関係づくり

上記の支援・サポートが必要だと考えられる。